夏季に向けた飼養管理のポイントについて

近年、宗谷管内でも夏場に30℃を超える日があり、乳牛も暑熱ストレスを大きく受けています。そこで夏季に向けた飼養管理のポイントについて、牛やエサ、施設から説明します。

1　乳牛

暑熱により乳牛の体感温度が高まると乾物摂取量（DMI）が低下します。また食欲が増す気温時にかため食いや濃厚飼料を選び食いするため、ルーメンアシドーシスを引き起こします。気温が上昇してきたら、乳牛に下記のような変化が見られないか確認しましょう。

①パンディング（肩を揺らす浅く早い呼吸をしていないか）
②反芻行動や回数が減少していないか
③横臥していない牛が増えたり、日陰や水槽、換気扇の周辺に群がっていないか（写真１）
④蹄周辺が腫れたり赤くなっていないか、また跛行（背中を丸めて歩く）牛が増えてないか
⑤糞の状態が軟便になったり未消化物が増えたりしてないか（写真２）

写真１　涼しい場所に群がる乳牛の様子

写真２　アシドーシスの疑いがある糞

2　飼料給与

暑熱時に、一口でも多く乳牛に食べてもらうよう、下記について確認しましょう。

①選び食いを確認して、エサ寄せ回数の増加と多回給餌の実施

暑熱ストレスが高まると、濃厚飼料のみを食べようとする「選び食い」が増える傾向にあります。乳牛の採食行動や残飼などから「選び食い」をしていないか確認しましょう。もし「選び食い」をしている場合、TMRの給餌回数を増やしたり、１回に給餌する給与量を増やすなどし、飼槽での「選び食い」を予防しましょう。

またエサ寄せの頻度を高め、常に採食可能な環境を作りましょう。写真３のような乳牛の口が届くことができる範囲にエサがない状態が続くと、乳牛の採食意欲が低下し、乾物摂取量が低下します。

写真３　エサ寄せ前の飼槽

②ロール等は細断する

ロールサイレージやロール乾草を給与する場合、細断して長さを短くして給与することでルーメン内の膨張度合いが下がり、乾物摂取量の増加が期待できます（写真４）。

細断することができない場合、フォークなどでできるだけほぐして給与することで乾物摂取量の低下を緩和することができます。

写真４　ロールサイレージをカット中

③液状糖質系飼料などの添加

液状糖質系飼料などを添加して嗜好性を高め、乳牛の乾物摂取量を高める方法があります。

しかし液状糖質系飼料は嗜好性が高まる一方、原料によってカリウムの含有量が高いものもあるため、給与する前に成分表を確認しましょう。特に乾乳牛へ給与する場合、注意が必要となります。

分離給与の場合、写真５のように粗飼料の上に水で薄めたものを散布し、給与します。

写真５　液状糖質系飼料の給与

３　施設

施設も暑熱対策として確認しておくポイントがあります。下記について確認しましょう。

①飼養環境の整備（ウォーターカップ清掃・換気、牛体冷却）

（１）ウォーターカップや水槽の清掃

乾物摂取量を維持するためには、水を十分に飲めることが必要とされています。産乳量にもよりますが 1 日に 90～150 リットルの水を必要とします。特に夏は暑熱ストレスがかり、通常よりも飲水量が増加します。

ウォーターカップや水槽の清掃を行うことで、飲水が促され、採食が促進されます。写真６のようにウォーターカップ内の汚れがひどい場合、口に入っても大丈夫な食品用の重曹を使って清掃しましょう。

写真６　汚れたウォータカップの様子

写真７　カーテンを開き換気促進

（２）換気、牛体冷却

乳牛が採食したエサを消化するとき、熱を産生します。熱の発散が上手くいかないと、熱を産生させないためにエサを食べるのを止めてしまいます。エサを腹いっぱい食べさせるには、暑熱ストレスを感じさせないことが重要です。

換気と牛体への送風を充実させることで暑熱ストレスを低減させ、乾物摂取量（DMI）の低下を防ぎましょう（写真７）。

作成：宗谷農業改良普及センター（令和５年６月）